



■ 赤門

鹿島城の本丸御殿の表門で、古くから丹塗りであることから「赤門」として親しまれています。門の構造は切妻造、棧瓦葺きの薬医門とよばれる形式で、門の右側には番所が附属します。棟札から鹿島城が落成した1年後の1808(文化5)年に建立されたことがわかります。江戸時代の鹿島鍋島藩の居城であった鹿島城は、それまで北鹿島の常広にあった常広城を幕末に近い1807(文化4)年に移転したものです。



■ 武家屋敷

現在「城内」とよばれる地区は、その名のとおり旧鹿島城の城内にあたり、地区内には数多くの武家屋敷が点在していました。高禄の武家は大手門から本丸(現鹿島高校)までの間の道沿いと本丸の裏に屋敷を構えていました。また下級武士は城内ではなく鹿島領内に点住し、農業や商業を兼業していました。現在城内に残る武家屋敷は非常に数が少なくなりましたが、本丸裏は現在も武家屋敷の面影を残し、武家屋敷通りとよばれています。



■ 思瓊神社

藩主として多くの堤・干拓・水路の築成を行い、名君の誉れ高い3代藩主直朝を慕い、祀った神社です。市内に数ヶ所あります。写真は花木庭にある神社です。



■ 肥前浜宿継場

この建物は、肥前浜宿の旧太良海道沿いに建っており、江戸時代に宿場から宿場へ荷を運ぶための人や馬を継ぐ「継立(つぎたて)」という業務を行っていたことから、「継場」とよばれています。道路に面した切妻造の間口4軒半の商家で、江戸後期頃の建築と考えられます。明治以降、継場としての役割を終えた後は呉服問屋として使われていました。



■ 鍋島 直朝

鹿島藩3代藩主である鍋島直朝は、佐賀本藩の初代藩主勝茂と不仲になり、絶縁して下総国矢作(現千葉県香取市)に去った2代藩主鍋島正茂の後を受け、1643(寛永20)年鹿島藩主となりました。直朝は武においては柳生流を体得し、文においては書画に通じ歌道にも優れた才能を示しました。

